

宇宙空間の安定的利用への脅威

- 各国の対衛星兵器(ASAT)関連技術の進展に伴い、宇宙空間の安定的利用に対する危険性が増大
- 宇宙空間において宇宙ごみ(スペースデブリ)が急速に増加しており、デブリと衛星が衝突して衛星の機能が喪失する危険性が増大
- デブリや不審な衛星等から人工衛星等を防護するため、諸外国は宇宙を監視し、正確に状況を認識するための宇宙監視能力を充実

【中国】

- ・低軌道における衛星同士の近接実験(2010年)
- ・静止軌道における衛星同士の近接実験(2016年)

【ロシア】

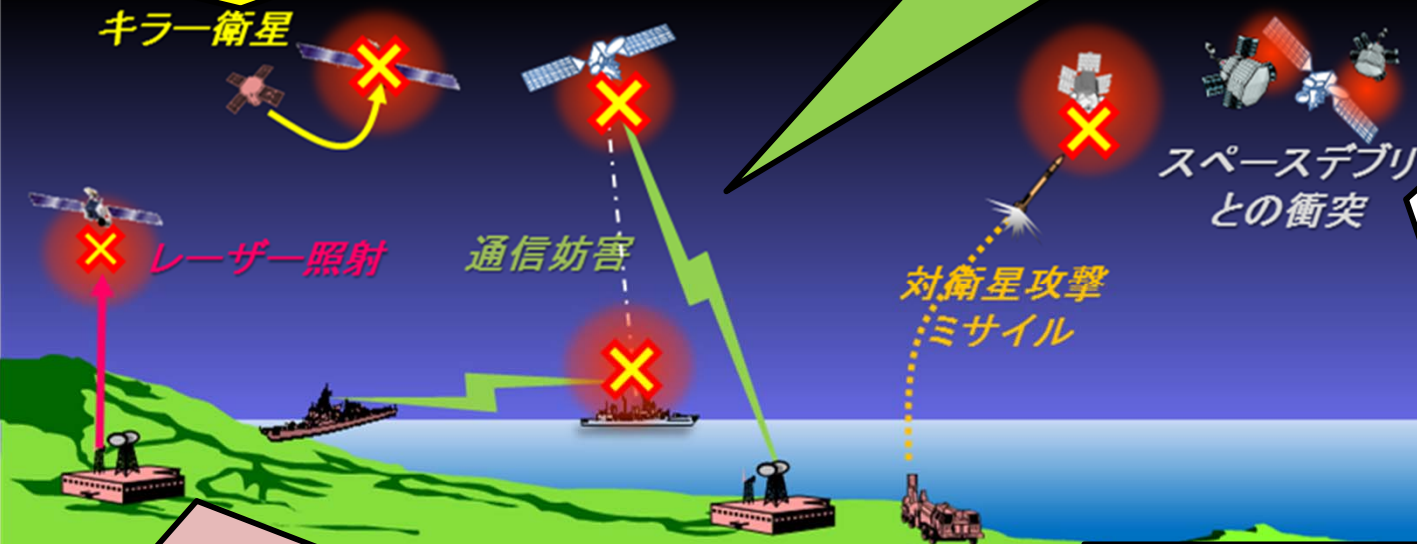
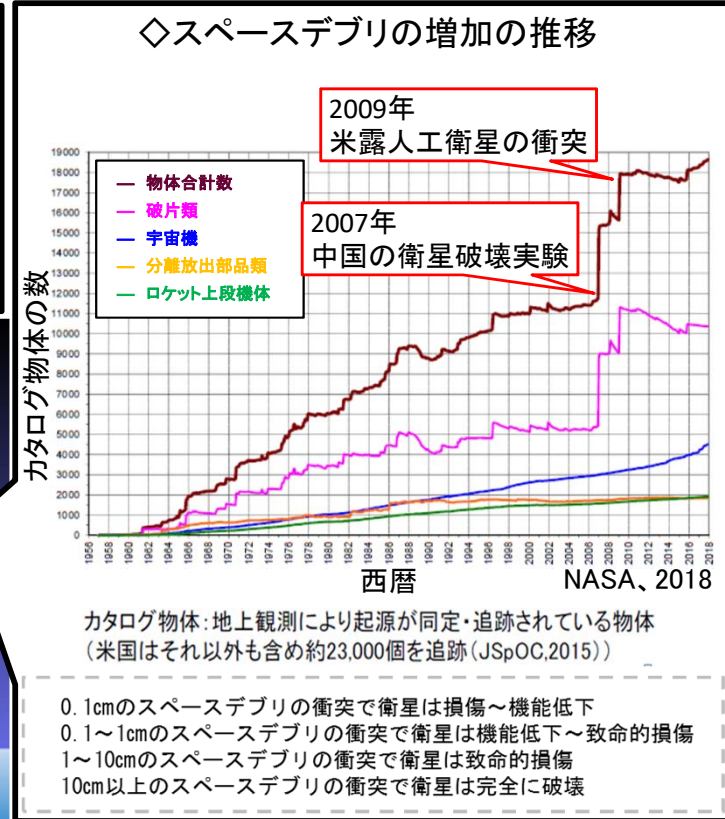
- ・キラー衛星への転用が指摘される衛星を監視していると米軍司令官が発言(2015年)
- ・衛星が不自然な動きを示したと米国務省が指摘(2018年)

【中国】

- ・南沙諸島ミスターフ礁に設置されたジャミング装置について衛星通信妨害能力ありとの指摘(2018年)

【ロシア】

- ・衛星通信妨害能力を有する「R-330ZH」(車両搭載型ジャミング装置)をクリミアで使用(2014年)



【中国】

- ・米国衛星にレーザー照射の疑い(2006年)
- ・300kW級の衛星妨害用地上配備型化学レーザーを開発中。2020年頃開発が完了する可能性

【ロシア】

- ・ASAT能力を有する*航空機搭載型化学レーザー兵器「1LK222」を開発中。2020年代半ば頃には開発が完了する可能性

【中国】

- ・地上発射ミサイルによる自国衛星の破壊実験(2007年)
- ※2014年、2015年、2018年にも衛星の破壊を伴わない対衛星ミサイルの発射実験

【ロシア】

- ・ASATミサイル「PL-19」を移動式発射台から初打ち上げ(2018年)

現防衛大綱における考え方

IV 防衛力強化に当たっての優先事項

2 領域横断作戦に必要な能力の強化における優先事項

(1) 宇宙・サイバー・電磁波の領域における能力の獲得・強化

ア 宇宙領域における能力

情報収集、通信、測位等のための人工衛星の活用は領域横断作戦の実現に不可欠である一方、宇宙空間の安定的利用に対する脅威は増大している。

このため、宇宙領域を活用した情報収集、通信、測位等の各種能力を一層向上させるとともに、宇宙空間の状況を地上及び宇宙空間から常時継続的に監視する体制を構築する。また、機能保証のための能力や相手方の指揮統制・情報通信を妨げる能力を含め、平時から有事までのあらゆる段階において宇宙利用の優位を確保するための能力の強化に取り組む。

その際、民生技術を積極的に活用するとともに、宇宙航空研究開発機構（JAXA）等の関係機関や米国等の関係国との連携強化を図る。また、宇宙領域を専門とする部隊や職種の新設等の体制構築を行うとともに、宇宙分野での人材育成と知見の蓄積を進める。

V 自衛隊の体制等

1 領域横断作戦の実現のための統合運用

(2) 宇宙空間の状況を常時継続的に監視するとともに、機能保証や相手方の指揮統制・情報通信を妨げることを含め、平時から有事までのあらゆる段階において宇宙利用の優位を確保し得るよう、航空自衛隊において宇宙領域専門部隊を保持するとともに、統合運用に係る態勢を強化する。